

## 平成 23 年度第 2 回知床世界自然遺産地域連絡会議

### 議事概要

平成 24 年 3 月 21 日 13:30 ~ 16:30

羅臼町公民館

### 議案

1. 科学委員会の検討経過について
2. 世界遺産委員会からの勧告への対応について
3. 第 2 期エゾシカ保護管理計画について
4. ヒグマ保護管理について
5. 知床エコツアーリズム戦略について
6. 知床国立公園管理計画改定について
7. 両町が実施している取組について
8. 広報
9. シンボルマーク部会からの報告
10. 地域連絡会議の今後の予定について
11. 平成 24 年度地域連絡会議の役員の選出等について
12. その他

## ●開会挨拶（釧路自然環境事務所長）

釧路自然環境事務所長の野口でございます。本日は、両町長をはじめ皆様方には大変お忙しいなかお集まり頂き、ありがとうございます。また日頃より世界自然遺産の保全管理について御尽力、御理解を賜り誠にありがとうございます。

本日はまず、今年度の科学委員会の検討経過を御報告させていただきます。引き続きまして、来年度からの施行を予定しております第2期エゾシカ保護管理計画及び知床半島ヒグマ保護管理方針、さらに来年度一年間を試行期間としております知床エコツーリズム戦略につきましても御説明させていただきます。

また、今回は斜里町及び羅臼町から、両町における取組についても御報告いただく予定です。

それでは、本日は短い時間ではございますが、忌憚のない御意見を頂きますようよろしくお願いいたします。

## 議題 1. 科学委員会の検討経過について

### ■資料 1-1：科学委員会の検討経過について

…木村（環境省）より説明。

質問・意見なし

### ■資料 1-2：エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループの経過報告・今後の予定

別添 1：平成 23 年度知床半島 3 地区のエゾシカ捕獲手法について

別添 2：エゾシカ捕獲手法検討（個体数調整）実施状況

…寺内（環境省）より説明。

**上野（斜里町観光協会）**：斜里町と羅臼町で実施しているエゾシカ捕獲の頭数をもう一度教えてほしい。

**寺内**：羅臼町で実施しているのが 250 頭、ただし今週末も実施されるとのことなので最終的にはこれより増えるはずである。斜里町で実施している分でちょうど 300 頭である。

**岡田（斜里町）**：エゾシカの捕獲について、今年度は手法検討をしてきたということであるが、来年度の方向性について具体的に教えていただきたい。

**寺内**：今後の内容については来年度6月に開催予定の平成24年度第1回エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループでも議論することになるが、今回得られた知見をもとに捕獲の効果的な組み合わせや回数を検討する予定である。また、資料1-2の別添1p.1の下段に※で記載しているように、知床岬に設置した捕獲のための仕切り柵の構造や設置箇所についても検討を進め、より多くのエゾシカを捕獲できるような方法を考えていきたい。

**中山（環境省）**：まだあくまでもイメージであるが、別添1のp.4図1の赤線部のように仕切りの設置を検討しているところである。環境省の予算でも、全国の他のシカ対策のための予算が削られる中、知床のエゾシカ対策だけはしっかり予算がついているのでがんばっていききたい。

■資料1-3：海域ワーキンググループ経過報告・今後の予定

■資料1-4：多利用型統合的の海域管理計画見直しの概要

・・・永田（北海道）より説明。

質問・意見なし

**中山**：多利用型統合的の海域管理計画の見直しについては今後議論をしていくことになる。本日は欠席されているが漁協や両町ともよく調整・相談のうえ進めさせていただきたい。

■資料1-5：河川工作物アドバイザー会議経過報告・今後の予定

・・・梶岡（北海道森林管理局）より説明。

**松本（ウトロ地域協議会）**：ダムの改修後にそれを利用する計画はあるか？つまり、例えばどのように改修したかといったことを見せてエコツアーのように利用する計画を考えることはできないだろうか？

**梶岡**：来年度、改良が適当とされた5河川13基のダムの改良が全て終了する。これを機会に、来年度、河川工作物AP委員による総括的取りまとめを予定している。取りまとめ後は外部への情報発信していくこととなっている。これにより、知床で行ったスリット化や新たな魚道の設置等を他の地域でいかしていただければと考えている。

**松本**：可能であれば、改修の結果や自然工法のやり方などを見せて利用していくほうが良いのではないかと思う。

**梶岡**：今年度は、地域の皆さんに「しれとこ科学教室」を開催し、座長である中村先生をお招きの上、ダム改良に至った経緯や改良箇所の見学を行った。なお、先ほど申し上げたとおり、総括的取りまとめ後に外部への情報発信を行う予定となっており、地域以外にも河川工作物改良の取組をご紹介したいと考えている。

**中山**：河川工作物 AP に持ち帰って議論し、フィードバックしていただきたい。

**桜井（ウトロ地域協議会）**：改修されてきたものについて、斜里町内のものを見てきたが、工法・やり方に関して、管理者や場所によって全体的な見た目や工法が随分異なるという印象を受けた。今回改修を実施するにあたって周りの景観や工法等について、最低限のガイドラインの検討はあったのか？

**梶岡**：確かにそれぞれスリット幅などが河川や場所によって異なるという御指摘は受けてきた。河川工作物 AP のほうでも、良い点・悪い点の両方をきちんと評価をしていこうという話になっている。

## 議題 2. 世界遺産委員会からの勧告への対応について

■資料 2-1：勧告への対応状況に関する本報告について

■資料 2-2：本報告 前文及び本文

…木村（環境省）より説明。

質問・意見なし

## 議題 3. 第 2 期エゾシカ保護管理計画について

■資料 3：第 2 期知床半島エゾシカ保護管理計画（案）について

別添 1：平成 23 年度第 2 回エゾシカ・陸上生態系 WG での修正点

別添 2：第 2 期知床半島エゾシカ保護管理計画（案）

…寺内（環境省）より説明。

**上野**：エゾシカの保護管理にあたって、銃での捕獲をしていくという方針に変わりはないようであるが、シカ牧場が有効ではないかと思う。ニュージーランドでもシカが増えて

おり、シカ牧場をつくっている。銃による管理をやめて、日本でもシカ牧場のような政策的な展開は考えられないだろうか。そのような検討はされているのだろうか。

**寺内：**環境省で実施している事業で捕獲したシカは、ルサと幌別の囲いわなで捕獲したものは生体で、その他は死体を回収して斜里町にある有効活用施設に搬入しており、そこで食肉やペットフード等に加工されている。

シカ牧場については、まず囲いわなのようなものに導き入れる必要があり、まずその点が容易ではないと思われる。また、捕まえても需要がなければ成り立たない。

斜里町ではこれまで、地元のハンターが捕ったシカを有効活用施設に持ち込むと数千円渡して引き取っていたようだが、環境省事業で捕獲したシカで施設側が手いっぱいになる時期もあり、そのため地元ハンターの分の受け入れが難しくなっており、ハンターのシカ捕獲意欲の減退につながっているという意見もある。遺産地域のシカを獲っても半島基部で増えたシカが遺産地域に流入してくるようではシカを減らせない。この点についても今後は対策を検討しなければならないと考えている。

**上野：**食肉としての流通のために積極的な政策が必要だと思う。その点について取り上げる意向や計画はないのだろうか。

**中山：**知床だけの話ではなく、全道的な観点から北海道のエゾシカ対策室のほうで食肉としての基準整備や普及施策等、流通の拡大に関して尽力いただいているところなので、連携してやっていきたい。あと一点、シカが相当増えているのでこれを一気に減らさないといけないというのが第2期エゾシカ保護管理計画の宿題である。生体捕獲や有効活用することにとらわれて捕獲数が伸ばせないようでは対策は進まない。シカの数がある程度減って安定したら、上野会長がおっしゃるとおり有効活用していくことが非常に重要と考えている。

**上野：**基本的には知床岬の先端に力を入れるべきであると思う。しかし現実問題として、捕獲してシカがいなくなればその場所にどんどん新たにシカが入ってくるので、全体としての計画が必要である。先日知床五湖に行ってみたら、シカによる食害で大変な状況になっていた。エゾシカ保護管理計画の中でも問題点として挙げられているが、食害が起きているという現実に対してもっと議論すべきで、全体の流れの中で検討していく必要があると思う。

**中山：**エゾシカ・陸上生態系 WG では、幌別―岩尾別地区が知床半島のエゾシカ対策の本丸であると位置づけている。冬期にはそこに相当多くのエゾシカが集まるので、幌別―岩尾別でどの程度効率的な駆除を展開できるかどうかで知床半島全体のシカを減らすこ

とができるかという議論になってくる。そのため、今年岩尾別で実験してきた経験を踏まえて囲い柵等に予算を投入して岬側や羅臼側でも対策を進めていきたいと思っているので御協力をお願いしたい。

エゾシカ保護管理計画について、今後行政機関での必要な手続きを経て施行することになる。今回が御審議いただける最後の機会となるので、異議がないか伺いたい。

(一同異議なし)

中山：この場で合意いただけたので今後環境省、森林管理局、北海道での手続きに移らせていただく。この計画を着実に進めるために、両町をはじめとする関係者のみなさんには御協力のほどよろしくをお願いしたい。

#### 議題 4. ヒグマ保護管理について

■資料 4-1：知床半島ヒグマ保護管理方針について

■資料 4-2：知床半島ヒグマ保護管理方針（案）

…木村（環境省）より説明。

桜井：住民説明会でも同じ質問をしたが、「捕獲」という言葉がなにを意味するのか分かりにくいと感じる。調査研究・モニタリング項目のところでは「駆除個体」という言葉を使っているし、「捕獲」と聞くとどこか別の場所に移動させるのかという印象を与える。知床というこれだけ注目されている地域において、ヒグマは観光資源の一つでもあり、危険な生物であるとともに、それが生息しているということは私たちにとって誇りでもある。そのヒグマの管理方針に用いる言葉として「捕獲」という言葉は人によって抱くイメージが異なり曖昧であるので、果たしてそれで良いのかという疑問がある。ヒグマ保護管理方針について検討していく中で、この点についてどのように議論してきたのかもう一度確認させていただきたい。

野川（環境省）：「捕獲」の定義について、知床半島ヒグマ保護管理方針の p.4 の「①ヒグマの保護管理活動」のところ「捕獲（駆除、生け捕り）」と書いている。捕獲の方法として駆除という選択肢をとることが実際には多いが、生け捕りが全くないかといえばそうではないので、「捕獲」という言葉でその両方を包含している。その場から排除することを指して「捕獲」といっているということでご理解いただきたい。

中山：前回のヒグマ保護管理方針検討会議においても同じ議論がでた。そのときには今の

話ともう一点、鳥獣保護法の用語との関係で説明をさせていただいた。鳥獣保護法では「捕獲」という言葉で説明しており、法律的にはこのような使い方になるということで、その横並びをとって統一している。一般の方にはかえって分かりづらいというのは承知しているが、行政機関の策定する管理方針なのでご理解いただきたい。

この知床半島ヒグマ保護管理方針の運用期間は5年間であるが、やり方は両町が従来実施してきたことをベースにしている。今後はモニタリングの結果等を整理しながら次の第2期の管理方針を策定していく。その第一段階として今回の管理方針をまとめさせていただいている。策定して終わりではないので、今後そういった作業を進めさせていただきたいと思っている。知床半島ヒグマ保護管理方針について御了解いただけるか伺いたい。

(一同異議なし)

中山：それでは今後関係機関における策定手続きに移らせていただく。

■資料 4-3：ヒグマ保護管理の今後の体制について

…中山（環境省）より説明。

質問・意見なし

中山：この場で合意いただけたということで、速やかに関係機関の内部で調整を行い、この地域連絡会議の下部機関としてヒグマ対策連絡会議を立ち上げさせていただく。

**議題 5. 知床エコツーリズム戦略について**

■資料 5-1：知床エコツーリズム戦略について

■資料 5-2：知床エコツーリズム戦略（案）

■資料 5-3：平成 24 年度以降のスケジュール（案）

■スライド：知床エコツーリズム戦略（案）について

…野川（環境省）より説明。

松本：具体的に、知床エコツーリズム戦略が適用できるのは遺産地域内に限るのか？

**野川**：基本的には世界遺産地域内に限る。

**松本**：公園の核心地域にばかり人が集まり利用が集中しているので、公園外もどんどん利用してもらえるように、知床エコツアー戦略の範囲に遺産地域内だけでなく遺産地域外も含めていただきたい。

**野川**：完全に遺産地域外のものは難しいと思われるが、遺産地域内にも関連があるものならば対象になる可能性がある。例えば羅臼の観光船などは出航して実際に利用している箇所は遺産地域外にもかかっているかもしれず、戦略の対象になり得るものである。遺産地域内外の両方にかかるものはその中の遺産地域内部分のみを対象とするということではなく、全体的な話で判断することになると思う。

**松本**：遺産地域外は環境省と関係がないからと、遺産地域内のことだけを考えて遺産地域外を突き放したりせず、遺産地域内外で連携してやっていくと良いのではないかと思う。

**中山**：補足させていただくと、そういった決め事があるわけではない。スケジュール表（資料 5-3）にもあるが、とりあえず来年度試行してみて、戦略を策定するのは来年度末になる。今のところの案としてまとまってはいるが、一年間やってみて見直すものである。今の御意見については決して取り入れられないものではないので、適正利用・エコツアーリズム検討会議のほうで、このような御意見があった旨報告させていただきたい。

**桜井**：遺産地域内と遺産地域外で連携していくことで知床全体の魅力向上につながると思う。

**中山**：ご説明したとおりの進め方でやりたいと思っているので、ご理解とご協力をお願いしたい。特に試行に関しては紆余曲折が予想されるので、是非皆様方のご協力をお願いしたいと思っている。事務局としてもがんばって取り組んでいく。

## 議題 6. 知床国立公園管理計画改定について

- 資料 6-1：国立公園の管理計画について
- 資料 6-2：知床国立公園 管理計画検討会 名簿
- 資料 6-3：知床国立公園 管理計画改定スケジュール

…三宅（環境省）より説明。



**中山：**知床国立公園の管理計画というのは、許認可のローカルルールや施設整備の方向性についても書き加えられるものである。各国立公園においてそれぞれ作成することになっており、管理計画作成のスキームに従って作成することになるが、知床に関しては本日も議論いただいている計画や地域連絡会議、科学委員会との関係もあるので、それらとの連絡を取りながら作業を進めていきたいと思っている。

**松本：**知床国立公園の区域は遺産地域と一致していないが、それは一致していた方が良いのか、それとも良くないのか。

**中山：**日本の他の世界自然遺産でも、必ずしも公園区域と遺産地域は一致していない。特に知床については遺産登録の際に、知床の他に以前私が立ち上げのときから関わっていた小笠原、琉球諸島と三つ候補があった。その中で最初に知床に手をつけようということになり、特に区域の見直しをせずに林野庁の制度と環境省の国立公園と原生自然環境保全地域を合体させる形で遺産地域を設定した経緯がある。そういった経緯があっても必ずしも遺産地域と公園区域は一致していない。私が以前手がけた小笠原では時間があつたので、ほぼ一致させてはいる。ただそれでも多少一致していないところもある。そのような経緯があるので、今から一致させるとなると様々なしがらみがあり難しい。国立公園の管理計画とはまた別の話で非常に大変なものである。

**上野：**環境省の国立公園はこれまで陸地部分がメインだったようなので、海域についてももっと力を入れていただきたい。

**中山：**海域は普通地域であるが国立公園に入っている。

**上野：**いろいろな形で海域についても取り組んでいてもらいたい。

**中山：**多利用型統合的の海域管理計画やウトロ海域部会で議論している内容についても管理計画に反映させるということで考えている。この管理計画の検討のなかで新しいものを作るということを考えているのではなくて、むしろそういった今までやってきたことの積み上げを、許認可や施設整備の方針などを管理計画に反映させて、国立公園行政をきちんと取り直し遺産の議論に一致させるというのが目的である。今いただいたご意見については対応を検討していく。このような方向で検討を進めさせていただき、検討の内容については地域連絡会議の場でもご報告させていただきたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。

## 議題 7. 両町が実施している取組について

■資料 7：ダイキン工業（株）の支援による知床世界自然遺産地域保全事業について  
…岡田係長（斜里町）、石田課長（羅臼町）より説明。

上野：斜里町の「カツラの森、命あふれる川の復元事業」とあるが、カツラしか植えないのか？

岡田：象徴的な種としてカツラの名前をいれているが、再生しようとしている河畔林の生態系の中にはもちろん他の種もあり、カツラ以外を排除するといった意図はない。

中山：カツラは名前もよく知られており、良いと思う。

桜井：カワウソについては、将来的にはサハリンまで含めて DNA 調査を行うことを検討してはどうか？

岡田：「100 平方メートル運動の森・トラスト」では、開拓以前の生態系の復元を目指しており、森林の再生だけでなく生物相の復元にも取り組んでいる。復元対象種としてはカワウソもリストアップされており、この事業の中にもカワウソに関する調査研究を盛り込んでいる。国外の事例収集も含めて調査することになっているが、即再導入を検討するというのではなく、カワウソでも生息できるような自然環境であれば、良好な河川環境が回復したという意味で象徴的な種であるため取り上げているもの。

桜井：復元事業と河川工作物の改良の方法や検討結果との関係や、地域で今後どういう形で事業を進めていくかという可能性について教えてほしい。

梶岡：今あったお話は前回 1 月に開かれた河川工作物 AP において斜里町より説明があった。斜里町での事業であるが、来年度現地で河川工作物 AP の委員より工法などについてご助言いただくことで確認している。

上野：河川改修をする際に、いわゆる近自然工法というのを釧路川でも取り入れているようであるが、それを知床でもモデルになるようなものやってみたらどうか？ダムを造っていった開発さんのやり方というのは、どうもここでいろんな実験をしていたのではないかと私自身が思っているぐらいであるが、実際には新しい河川改修の際に、モデルになるものをここでひとつやってみてはいかがか。スイスで近自然工法の現場を見せてもらったことがあるが、釧路川でもやり始めたということであるし是非この機会にやっ

てみてはどうか。

**中山：**羅臼岳の登山道も一部その工法を利用して補修している。北海道では、どちらかといえば登山道の補修に近自然工法を活用している例がある。川のほうはどちらかといえば自然再生の話で流路を変えるとかそういう話が多いが、そういった意味では事例がぼつぼつとあり、専門の技術者の方も道内にいらっしゃるの、そういう情報提供を斜里町さんにしていきたい。

**松本：**いいことをやっているときはそれをどんどん出してアピールして、利用方法も考えて、改修の工法も見えていただいて、「こういうことをしているのだな、さすが知床だな。」と言われるようにしていただきたい。

**中山：**おっしゃるとおりである。

## 議題 8. 広報

■資料 8-1：ニュースレター（知床科学委員会しんぶん）について

参考：前回会議以降に発行された知床科学委員会しんぶん

■資料 8-2：地元報告会（自然遺産しれとこ「科学教室」）について

参考：しれとこ科学教室 開催概要

…木村（環境省）より説明。

質問・意見なし

## 議題 9. シンボルマーク部会からの報告

■資料 9-1：平成 22 年度知床世界自然遺産シンボルマーク 使用状況

■資料 9-2：平成 23 年度シンボルマーク使用申請許可状況

参考：知床世界自然遺産シンボルマーク運用規定

…田澤事務局次長（知床財団）より説明。

**中山：**申請不要の利用方法もありますし、もちろん申請していただいてというのものもあるが、申請件数が減ってきているようなので、積極的に活用していただけるよう関係者のみなさまにはお願いさせていただきたい。

**議題 10. 平成 24 年度地域連絡会議等の日程と主要議題（予定）**

■資料 10：平成 24 年度地域連絡会議等の日程と主要議題（予定）

…木村（環境省）より説明。

質問・意見なし

**議題 11. 平成 24 年度地域連絡会議の役員の選出等について**

■資料 11-1：知床世界自然遺産地域連絡会議 平成 24 年度役員名簿（案）

■資料 11-2：知床世界自然遺産 地域連絡会議 設置要綱

…中山（環境省）より説明。

質問・意見なし

（一同異議なし）

中山：本日は両町の町長にもお越しいただき、長い時間話を聞いていただき大変ありがたいと思っている。今日はいくつか計画として了解をいただいたものがある。第 2 期知床半島エゾシカ保護管理計画と知床半島ヒグマ保護管理方針についてはこの後関係行政機関における手続きに入らせていただく。知床エコツアーリズム戦略についても進めていきたいので、皆様方のご協力をよろしくお願いしたい。

以上